

平成 28 年 2 月 27 日

八尾市交通まちづくりセミナー

～ みんなでつくる
「出歩くのが楽しくなるまち」～

13:30

◆ 開 会



◆ はじめに 「八尾市における 交通問題」
～平成 27 年度版～

八尾市建築都市部交通対策課

13:50

◆ 事例紹介 まちの主役の活動報告

○ 「白い杖」

八尾視覚障がい者福祉協会

なかむら としゆき
中村 年之 さん

○ 「見えないもの」

八尾視覚障がい者福祉協会

やまもと じょうこ
山本 丞子 さん

14:30

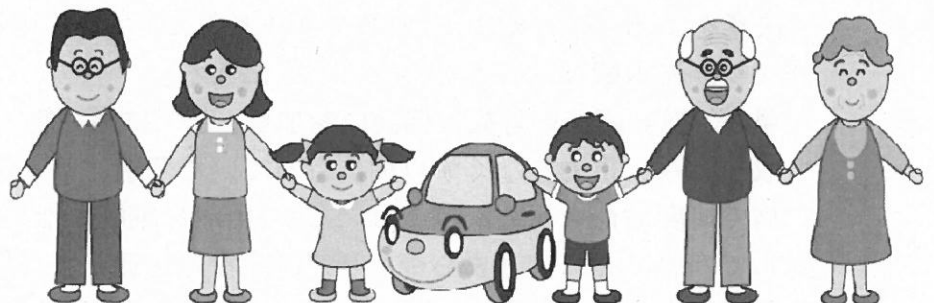
◆ コーディネーターからのコメント

近畿大学 総合社会学部 教授

ひさ たかひろ
久 隆浩さん

15:00

◆ 意見交換



15:30

◆ 閉 会

*プログラム時間は予定です。

出席者プロフィール

・コーディネーター 久 隆浩さん (近畿大学総合社会学部 教授)

大阪大学大学院工学研究科博士後期課程(環境工学専攻)修了、工学博士。(財)21世紀ひょうご創造協会主任研究員、大阪大学工学部助手、近畿大学助教授などを経て、現在近畿大学教授。豊中駅前地区のまちづくり支援をきっかけに、関西地区で住民主体のまちづくり支援に関わる。近年は、各地域で市民主体の地域プラットフォームを仕掛けられています。

八尾市においても、地域経営アドバイザーとして携わっていただき、また、交通基本計画、バリアフリー基本構想等、数多くの計画策定にご尽力をいただいています。

主な著書は、『都市・まちづくり学入門』(共著)学芸出版社、『21世紀の都市像』(共著)古今書院、『自治都市・大阪の創造』(共著)敬文堂など。

・活動報告 中村 年之さん

1944年生まれ、昭和44年より八尾市に在住。網膜色素変性症により20歳過ぎから徐々に視力を失う。視力を失う前後より、マッサージの仕事と出会う。現在も現役で仕事を続けている。八尾視覚障がい者福祉協会に参加し、会報「白い杖」にも積極的に投稿し、会員の方々へ自身の経験や思いを発信している。

電車のホームから2度も転落したこともあり、外出時は絶えず危険と隣り合わせだと実感している。毎朝の日課として、長瀬川沿いの遊歩道を1時間程度の散歩し、途中で出会う人たちとの挨拶をかわすことも一つの楽しみ。

交通まちづくり懇話会にも参加し、道路の安全に関する意見やアイデアを伝えながら、最近出会ったタンDEM自転車の楽しさも語り、ますます行動の幅を広げている。

・活動報告 山本 丞子さん

1947年生まれ。30歳代後半から40歳代前半に原田氏病との診断を受け、短期間に視力をなくす。失明後は、何度となく死ぬことを考えたが、家族の支えや子供たちのことを思い生きる決意をする。その後は、これまであまり気にしなかった人の苦勞や苦しみに心を向けるようになり、先入観なしに人と接するようになる。

現在、視覚障がい者福祉協会に参加し、新たに編み物、グラウンドゴルフ、カラオケなどにも取り組み、視力をなくす以前に行っていた華道、茶道などの趣味もあわせて楽しんでいる。

病で何度も命を失いかけてはいるが、治療を継続しながら視覚障がい者として感じる道路に対しての思いを、交通まちづくり懇話会などを通して発信している。子ども2人をはじめ、ひ孫3人を持つ。『目が見えないことは、不便ではあるが不幸ではない。(ヘレン・ケラー)』と考え日々を過ごしている。日々「ありがとう」の人生を送っている。
